

魔法の音読

ぶん・た

あおきとしえ

sample



冬休みが終わった1月のある日、6年生の とんちゃんは 道徳の時間に
先生から 声を かけられました。

「大杉さんと 小柳くん、ふたりは国語の教科書をもって 先生のところに
来てください。」

とんちゃんは、少し うしろの席にいる 小柳くんと いっしょに
先生の ところへ 行きました。

「みなさんは これから 配るプリントで
自習を してください。」

そう言って プリントをくばり終えた 先生は
大きな机に もどり ふたりに言いました。



「もうすぐ中学生に なりますね。」

ふたりとも、話をするとき "どもる" よね。

大杉さんは それに加えて 早口ときてる。

さて、どうしたものか・・・と、先生は 思ったんだよ。」

ふたりは ときどき 先生の顔を見ては

下を向き 話を 聞いていました。

「"どもり" は 治るよ、がんばって 治そう。」



ふたりは 目を合わせてから 先生を 見て うなずきました。



休み時間の先生はね、ときどき教室の隅にある大きな机に座って
何やら仕事をしています。

そんな時何気に生徒たちのことを観察しているのです。

とんちゃんは お友達と話すとき うまく話せないから

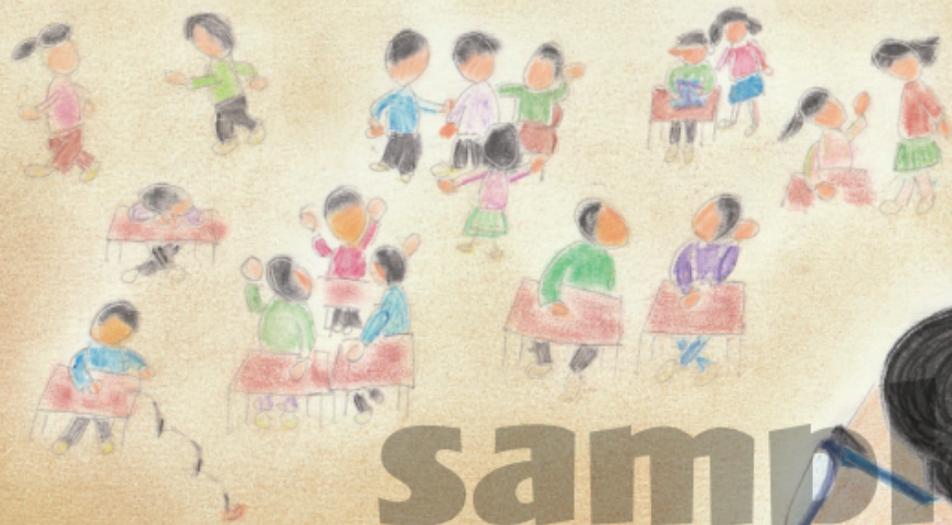
「うん」とか「へえ」とか言うだけです。

そして小柳くんはひどいどもりです。

なので、とてもおとなしく話そうとしません。

いつもだまってうなづくだけです。

教室にはいろんな子がいるけれど、先生はどの子のことも
見ています。



sample

さて、先生が言いました。

「まずは、大杉さんから 読んでください。」

ドキドキしながら 読み始めたとたん とんちゃんは つっかえて
しまいました。

はずかしくて たまりません。

先生は すかさず「あわてず、ゆっくり・・・」優しく 声を かけました。

とんちゃんは「落ち着こう」と、自分に 言い聞かせ ゆっくり ゆっくり
音読を 始めました。

先生は「、点のところにきたら 1度止めるよ。」と、声を かけ

「。丸のところは ひと呼吸して。」と、言い 段が下がっている ところに
くると

「3回数えてから 読み始めて。」 と、そのたびに 声を かけてくれました。





ためしよみ

は

ここまでです